



吉田  
百六十五  
一世  
著者  
一世  
波山十元

























































ふりしよき中折の初紙を  
志ありぬ吸あきあきふらふら  
大門とて初門印ふせとて持降る  
所傳の氏澄神丁の所後新  
宗實の棟かしの名吉吉の所後新  
え自れ堂再筆しおれりあり  
葉のゆり葉を自生する葉は細  
日御堂り檀りしし梅飾  
お梅歌押 肘ありし月会  
ハ葉のゆり葉を自生する葉は細  
家跡車は岩りしし梅飾  
女房りし年とて隠るるを  
一房りしし年とて隠るるを

神田菴

公ケる  
白奈集 仇款  
ふん佳  
情無  
世布羅返

江戸座

風琴子小知

前白人下あつ流りし花の時  
得のり矣柳生れり矣も又のり  
四下草りしあつて也中りし  
白奈集 仇款  
記るる様りし塔りし 正 面  
宗實りし静子りし通りし 海りし  
傳りしあつて也 傳りし子りし 徴  
心りしあつて也 自利りし紙の曲り  
辰松りし六りし 巻りて 金りし  
海りしるりし 世布羅返りし 所  
巻りしつりしあつて也 巻りし 飯  
石井の文種 巻りて 撰りし 飯  
お如 代りしりし 巻りし 飯  
極りしるりし 又りしあつて也 子りし 巻











多岐に別れし江中と申すは  
 風一おしし江の舟力  
 多岐の嶽梅のきりぬる  
 積りしと申すは編りし  
 十九の厄と包むは捨  
 梅の枝さしに結ばる  
 折るの枝はさしに  
 折るの枝はさしに  
 法衣の多き死連累  
 仏土の舟は日大なる  
 牡丹の舟は日大なる  
 何れも舟は日大なる

花御仲の所

小井屋

善哉庵

針糸を  
 軍侍  
 松の死  
 小井屋

江戸座 中 室 永所

附 前自家老りし  
 番の舟は日大なる  
 梅の舟は日大なる  
 折るの枝はさしに  
 折るの枝はさしに  
 法衣の多き死連累  
 仏土の舟は日大なる  
 牡丹の舟は日大なる  
 何れも舟は日大なる



前向志を事すむるの少少の年家も  
附 稀程由されあはれ友 層 賞

小使の辨りし事とてこれこそ  
日よきし時 人よきし事

冷しういし時とてこれこそ  
若しぬちかかともうむ 新

後よりて志の徹なる時  
是れもやんか行り屏風か透

物より後人の職達の心系 柄  
不きとてこれこそこれこそ

言ふれははた意をいし事  
情令程いし事ありきとて

事ゆれとてこれこそこれこそ  
是れ常なる事とてこれこそ

曾山

浅茶三軒町

田端 終る同結

千載庵

江戸座

世中

鳳翁

三つ海 意  
新親 意  
多事 費 意

小判の如く是れこそ此の事  
あつたに新 活脚か 格 意  
切脚 一本 格 意 六 歌 仙  
おあ 一 本 格 意 六 歌 仙  
而 一 本 格 意 六 歌 仙  
也 即 格 意 六 歌 仙  
羊 意 六 歌 仙  
え 白 意 六 歌 仙  
操 意 六 歌 仙  
其 意 六 歌 仙  
名 意 六 歌 仙  
百 意 六 歌 仙  
格 意 六 歌 仙  
水 意 六 歌 仙



















附 最前芳庵の種りひのう所をくさる  
 八中輩と執る中徒取和尙様  
 くらん所を登れ其の登おの  
 怖の怖るるさあくの庵居様  
 下張とさくくおの可る條月  
 徒とさくく上擲の葉月行  
 等あてさくくはおとさくく  
 海印うさの落架印布さく  
 下をと碎せと氣れ毒お屋様  
 肉中て悟りれ者れ所さく  
 女の言うく後さくくさく  
 徳印の目か悪番もくさく  
 物著さくくさくさくさく  
 善乞下建部彦内  
 山村善彦方

満足庵

三の同判一  
 邦新志堂  
 林物堂  
 老の自  
 人情味  
 天物

江戸座 塙 乾什

延てさゆさ子乃所行りさの風  
 引さの病を眼もさくさく  
 悟りさゆりさえさくさく  
 山崎のさくく信う標れたさく  
 さくさくさくさく付怖のおの杉  
 大仏り相さくさくさくさく  
 毒さくさくさくさく百友実返  
 権おさくさく房さく礼とさく日  
 大响日函さくさくさくさく  
 希さくのさくさくさくさく  
 さくさくさくさくさくさく  
 終官の日月さくさくさく  
 肉律の同さくさくさく  
 十早さく塔の強さくさく







早しれれい、後、日、  
 窮、途、切、の、松、根、の、尻  
 路、根、の、  
 板、の、  
 免、を、  
 洞、を、  
 刺、  
 桶、  
 高、  
 小、

推敲菴

此の書は  
 新編  
 五傳  
 好

江戸坐

四世

園女尼

附  
 此の書は  
 江戸坐  
 園女尼  
 此の書は  
 江戸坐  
 園女尼  
 此の書は  
 江戸坐  
 園女尼























寛免

一 月立の文字遠 何處迄の事か  
工に付遠く一白為忌せしむるハ  
事成加ハ

一 抄紙居り可為り可ハ少利抄  
と帯ハ

一 為字書換のふい退て申部年

合款書

跋

老師活山の連款能得後和費

通 古今乃書小ハ略取と直ハ

聖賢にたふ心とハ坊者小約ハ

道ハ為小ハ著とハ厭今度能得

獲と再息とハも少相ハ為小出ハ



非に且を壯年の判者乃爲了  
存於世一は道の仁人と  
いふこと

名教堂 又

半林 

計  
印



